

性の歴史

ミシェル・フーコー『知への意志』より

1

性の歴史

授業概要

1. ミシェル・フーコーについて
2. フーコーによる「性の歴史」

2

性の歴史

1. ミシェル・フーコーについて

Michel Foucault 1926-1984

20世紀フランスの哲学者。狂気、医学、刑罰、性などに関して、哲学的観点から歴史研究を行う（現在の問題について考えるために、過去へと遡る）。著書に、『狂気の歴史』、『言葉と物』、『監獄の誕生』、『性の歴史』など。

3

性の歴史

2. フーコーによる「性の歴史」

- 1) 問題提起
- 2) 抑圧の仮説
- 3) フーコーの仮説
- 4) 性の真理と人間の真理
- 5) 性と権力

4

性の歴史

- 1) 問題提起

現在、我々は性に対して多大なる関心を払っているように思われる。そうした性に対する「知への意志」は、ヨーロッパの歴史のなかで、いったいどのようにして生じたのか？

5

性の歴史

- 2) 抑圧の仮説

我々の性は長いあいだ抑圧されてきた、したがって性を解放しなければならない、性についてもっと語らねばならない・・・という主張（フーコーによって反駁される主張）

- キリスト教による抑圧（性＝罪）
- ブルジョアジーによる抑圧（性＝エネルギーの浪費）

6

性の歴史

3) フーコーの仮説

- むしろ性は扇動されてきた、という主張。
- カトリックにおける告解confessionの伝統
 - ブルジョアジーによる性の独占

問： 性について語るという古くからの伝統が、18世紀になって、社会全体に爆発的に広がることになる。これはどうしてなのか？

7

性の歴史

4) 性の真理と人間の真理

答： 性が人間に関する重要な秘密を握っている、と考えられるようになるから。

例：精神分析

問： どうして、性がかくも重要な秘密を握っていると考えられるようになったのか？

8

性の歴史

5) 性と権力

答： 権力のメカニズムの変化による。すなわち、人間の生命を標的とする権力の登場によって、性が重要な問題として構成されたということ。

殺し、生きるままにさせておく(faire mourir et laisser vivre)権力から、生かし、死ぬままにさせておく(faire vivre et laisser mourir)権力へ

9

性の歴史

※ 「権力」について

フーコーの言う「権力」とは、所有したり奪われたりするような「モノ」ではなく、我々の社会にはたらく「力関係」のこと。

10